

増月

修禅寺・寺報
Shigetsu

発行所：福地山 修禅寺 〒410-2416 伊豆市修善寺964 電話(0558)72-0053 FAX(0558)72-9680

平成26年

第55号

1月1日

◆特集

念願叶い 裏山を整備

自然を守り、歴史も守る…
修禅寺裏山が生まれ変わります



修禅寺山門の

修理工事

静岡県文化財保護審議会会長

博士（工学）

たてべ
建部 恭宣
やすのぶ

修禅寺山門の修理工事が始まった。檀家の方々やお寺の皆様にとっては、日々馴染んでこられた山門は、半ば空気のように「あつて当たり前」の存在だったと拝察され、歴史的背景や建築史上の特徴についてはあまり知られているとは考えられない。そこで、修理工事をきっかけに新たに認識していただきたく、稿を草する次第である。

―當寺は創開の際真言宗にして僧空海の草創にかゝる所なりと云ふ、降て僧蘭溪の時代に至り臨済宗となり、後僧隆溪に至り曹洞宗と改め、以て現今に至る。

とあり（『修善寺村史』大正三年）、宗派の変遷に触れている。

その後、文久三年（一八六三）の火災で伽藍が悉く焼失した、ということである。しかし、山門の棟札には、文久三年八月に、「再建総門壹宇三

山門修理が始まりました



世賢聖護伽藍神」されたことが記されている。一方、明治二十二年の開山堂及び位牌堂棟札には、
 禅師開基大師ノ徳澤ト云可シ郷向ニ
 文久三年二月祝融崇リヲ成シ山門諸
 堂咸ク灰燼ス
 とあるので、文久三年の火事は、日付は判らないが二月に発生して「山門諸堂」は悉く灰燼に帰したのであった。その後直ちに再建工事に採りかかり、半年後の八月には無事竣工したことが判明する。約半年とい

う短期間に再建されたことは驚きであるが、本堂や庫裏などより先に山門復興に着手したことは、異例ではないかと考えられる。

この門の基本的な形式は一間一戸、四脚門、切妻造り、棧瓦葺き、両袖塀付（右側の塀は当初潜り）である。

「一間一戸」、すなわち「一間」実長の六尺」の意ではなく、柱間が一間（ひとま）で扉をその間に建てること、「四脚門」とは二本の主柱の正・背面に四本の控柱を立てることである。寺社の門には、多様な形式がある。平面上で見ると、最も簡素な「一間一戸」から「三間一戸」

「三間三戸」、さらに「五間三戸」などと類別される。また、立面や構造・形式などからは、主柱二本で棟を支える「棟門」や、控柱を付けた「薬医門」「四脚門」「高麗門」などがあり、さらにそれらの変形も数多い。『静岡県の近世社寺建築』によると、悉皆調査の結果では「四脚門と薬医門は数が夥しいが」と断りながらも、

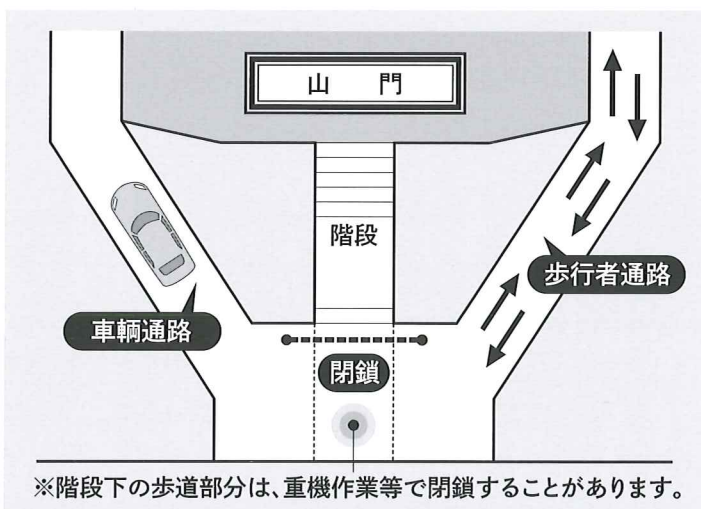
四脚門にも色々の種類があつて、（中略）、和様の四脚門の方式を伝えて、主柱と四脚柱の高さを揃え、

お知らせ

山門の改修工事にともない、平成26年8月下旬（予定）まで正面階段と山門を通過することができません。境内への通行は山門向かって右側通路をご利用ください。また、車両につきましては左側通路をお願い申し上げます。（下図参照）

御不自由おかけしますが、御協力の程、よろしくお願い申し上げます。

合掌



頭貫や斗拱を置いた上に妻を組むものと、禅宗様の門の手法をとって、主柱を高く延ばし、側柱上と主柱上に斗拱を置いて、直ちに桁や棟を受けるものとある。しかし意匠的には皆禅宗様をとりいれていて、純和様のものはない。

の殆んどが和様と禅宗様の「折衷様」である。その中であって、修禅寺の山門は全体的に和様で統一されており、江戸時代末期の建立ながら、古式を忠実に継承した作品と判断される。オーソドックスで地味ではあるが、「純和様四脚門」の数少ない遺構であり、昨年六月には伊豆市の有形文化財に指定されたのである。

◆ 念願叶い裏山整備



(完成イメージ)

森林内散歩のための歩道を整備します



(完成イメージ)

歩道沿いに花木の植栽やベンチ、案内板を設置します

修禅寺の裏山は通称「寺山」と呼ばれ、面積は修善寺梅林の隣接地まで約11ヘクタールあり、墓地を除きほとんど人の手が入っていませんでした。

近年、全体の荒廃が進み、山崩れ等災害の危険性を指摘されておりましたが、修禅寺単独で防災工事を実施することは難しく苦慮しておりました。

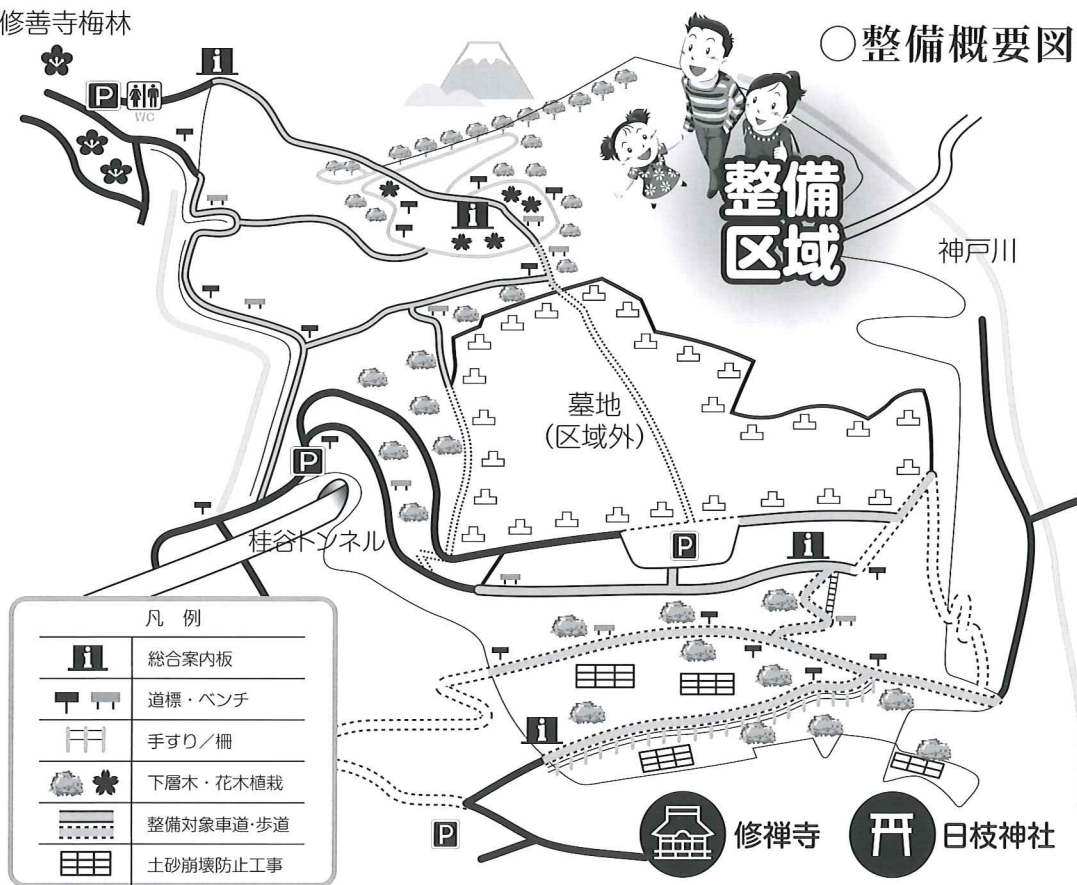
そこで、修禅寺・地元の温泉区・観光協会・旅館組合などで協議会を作り対応を検討。その結果、所有地を市に無償貸与し、治山工事と公園化を合わせた生活環境保全林として県東部農林事務所に整備してもらったことになりました。

計画では、土砂崩壊防止工事をはじめ、危険木の伐採・花木の植栽・歩道整備などを実施し、誰でも自由に利用できる森林公園として2016年度までの4年間で整備し、完了後は市が管理する予定です。

一連の作業開始にあたり、関係者を集めての地鎮式が10月15日に行われました。

修善寺梅林

○整備概要図○





鑑賞

修禅寺

ほうもつ
宝物紹介

びしゃもんてんりゅうぞう

●毘沙門天立像

今号より再開しました『修禅寺寺宝紹介』ですが、今回は毘沙門天さまをご紹介します。

修禅寺の毘沙門天さまは、平安時代後期の制作で像高は82.6cm、ケヤキ材の一本造りであります。平成六年四月〜平成九年一月にかけて修復をおこなっております。

ただ今、当山『宝物殿』にて期間限定公開中であります。

毘沙門天とは：仏教の護法神。多聞（たもん）天とも称します。帝釈（たいしゃく）天に属して北方を守護する神とされてきました。仏教では四天王の一尊で須弥山（しゅみせん）の北方に住し、北方を守る護法の善神とされました。その形像は甲冑（かっちゅう）を身に着け、憤怒（ふんぬ）の相をし、左手に宝塔を捧（ささ）げ、右手に宝棒または鉞（ほこ）を執（と）り、二夜叉（鬼）の上に立っております。楠木正成や上杉謙信など、武将の信仰を集めました。武将形のまま七福神の一つに数えられ、福德を授ける神としてひろく民間に信仰されております。

Q&A

Q

この『おてらQ&A』は、お寺や仏事に関する“？”な質問に毎号、吉野住職がお答えしていきます！というコーナーです。

Q お墓にお供えした、お塔婆（おとうば）、いつまでお墓に置いておくの？

A 塔婆と塔婆供養について

空・風・火・水・地の五大を重ねた五輪塔の一種。もとは仏舎利（ぶつしゃり）を納めた舍利塔を言ったそうですが、日本では墓標・追善供養等に用いられるようになりました。衆生が本来をなえている仏の本質、すなわち仏さまの御姿（仏体）を表したものです。建立には、仏さまの御姿（塔婆）を作り供養する功德をもって先亡精霊の離苦得楽と無上仏果菩提に上がる事を助けると言う意味があります。

行事・イベント

あれこれ

■桂谷八十八ヶ所巡拝

(十月七～九日)

今年は初日七日が雨天となっていました。が、それでも参加者みな雨具を身に着けて元気に巡拝されました。



■修禅寺手づくり市

(十一月十六～十七日)

今回で六回目となりました。春・秋に開催されています。規模も拡大し境内・とっこ公園の二会場で盛況でした。



■庭園特別公開

(十一月二十二日～十二月二日)

境内裏手にある庭園「東海第一園」が護持会主催で特別公開されました。(今年で五回目) 期間中大混雑でありました。



修禅寺 山内衆紹介

今号より、修禅寺におります僧侶・スタッフを紹介してまいります。



柴崎大心 さん
だい しん

吉野御前様の弟子として平成21年に修禅寺に上山しました。以来5年、御前様とともに参禅弁道の日々であります。

笑顔まぶしい、埼玉県出身の青年僧侶です。

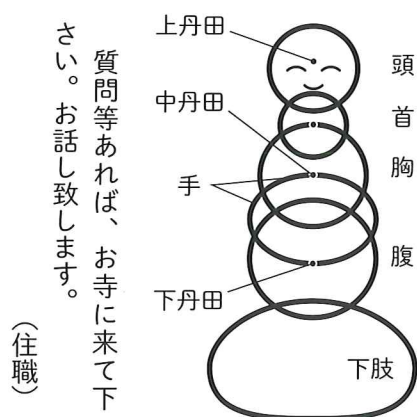
みなさま宜しくお願いいたします。

檀信徒の皆様には、葬儀の時に作る『七本塔婆』と一周忌・三回忌等に作る『年忌塔婆』が良く知られています。

塔婆は、仏体ですので粗末にあつかう事はできません。古い本には、自然に朽ちるまで置くのが良いだろうと書いてあるものもありますが、お墓によかれ、破損した塔婆をそのまま置いておくのも気が引けるものです。よかれ、破損した塔婆は、気付いたらお寺へ持って来て下さい。寺では、読経供養の後、お焚き上げ致します。

塔婆は、仏さまの御姿です。いつまで墓に置くのが良いか等の決まりは正直ありません。

坐禅を長く修行していると、人体(身体)が五輪塔のようになっている事が分かり、五つの輪にはそれぞれ中心がある事も体感できます。





◆伊豆市指定 有形文化財（建造物）に 認定されました！



今号の特集にもなっており、山門ですが、その歴史的価値が認められ本年六月二十八日、伊豆市より有形文化財（建造物）に認定されました。さらに、指月殿も同じく認定されました。

この結果、伊豆市の指定文化財は七十七件となったそうです。

これからも地域の貴重な文化財を大切に、後世に伝えていきたいものです。

修禅寺火曜坐禅会

*毎週火曜日 9:00 受付 9:30~10:15 坐禅
10:30~11:30 講話（正法眼蔵等）
費用は無料です。

*毎日 5:00~5:40 坐禅
5:45~6:30 朝のおつとめ（読経）
修禅寺 TEL.0558-72-0053

初めての方は、
火曜坐禅会に
御参加下さい。

ぶらり市 and 弘法市

修禅寺境内で毎月開かれています。

*ぶらり市 第1日曜日 9:00~16:00
*弘法市 毎月21日 9:00~12:00

いろいろな
露店がならび
楽しいです。

御寄附

○旧庫裡典座寮LED電飾一式

―伊豆の国市 谷口電気工業株式会社様―

○八十八箇所巡拝草鞋マスケット

―南町 鈴木容子様―

○八十八箇所巡拝草鞋マスケット

―牧之郷 山口惣一郎様―

○竹ぼうき十本

―中里 三須章吾様―

○竹ぼうき十本

―柏久保 杉村英明様―

○ぞうきん三〇枚

―佐野 飯田さと様―

○ぞうきんたくさん

―伊豆の国市 石上のぶ子様―

○タオル たくさん

―中神戸 植田喜久枝様―

○白米 三〇キロ

―中里 唐澤之泰様―

○白米 三〇キロ

―北又 山口信彦様―

〓御懇志ありがとうございました〓

歳末たすけあい。

東日本大震災救援

托鉢御報告

○十二月十八日に毎年恒例の歳末たすけあい托鉢(たくはつ)が行われました。昨年同様、今年も皆さまから温かい浄財をご喜捨いただきました。

◆十二月十八日

―温泉場・駅前―

浄財 十六万七二五七円

○皆さまからご喜捨戴きました浄財は、伊豆市社会福祉協議会に寄付させて戴きました。

あたたかいお志し誠にありがとうございました。
合掌

《東日本大震災義援金報告》

◆平成二十三年三月〓

平成二十五年十一月二十八日現在

合計 百三十二万六七七〇円

○義援金は日本赤十字社はじめ各復旧復興支援団体に寄付させて戴きました。義援金箱はお守り売店前にあります。
今後とも息の長いご支援の程よろしくお願いいたします。

年回表

平成
二十六年

一周忌	平成二十五年
三回忌	平成二十四年
七回忌	平成二十年
十三回忌	平成十四年
十七回忌	平成十年
二十三回忌	平成四年
二十五回忌	平成二年
二十七回忌	昭和六十三年
三十三回忌	昭和五十七年
三十七回忌	昭和五十三年
四十三回忌	昭和四十七年
四十七回忌	昭和四十三年
五十回忌	昭和四十年

◎法事のお申し込みは、
できましたら、一〓
二カ月前にはお願いいたします

編集後記



この原稿を書いている十二月：「師走」真っ只中でありました。
『師』はお坊さんを指し、年末年始の寺行事で忙しく『走り』回る様子から十二月の別称となっているそうです。
修禅寺の『師』である吉野御前様も毎年忙しい年末年始でまさに、師激走、といった状況です。

私も毎年、あつと言う間に二月の豆まきになつていくように感じています。だからこそ、今・此処を、たいせつに生きたいものです。って、それがなかなかできないんですよ(涙)

さて、今号より修禅寺寺報【指月】をリニューアルしました。
『よりわかりやすく・親しみやすく』を目標に多くの方々のご協力のもと試行錯誤をかさね、年のはじめに無事発行することができそうです。

ご協力賜りました方々に、紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。
ほんとうにありがとうございます。
ございました！

◆指月編集担当

はくりゅう記



山門修復事業

御協賛のおねがい

住職 吉野 真常

拙僧儀、平成二十一年七月修禪寺へ入寺。平成二十三年十月には慈陰の下、幸に晋山式を修行させて戴く事ができました。

小生が入寺した当時は、開創千二百年祭直後の事で、本堂等は改修工事も終り、落慶法要も無事円成し、修禪寺山内は、見違える程になっていました

残すは、前住職より引き継ぎました奥之院護摩堂の再建のみと思っておりますが……。

晋山式前の夕方。山門を閉めている時です。「ドドッ」と言う音と共に山門上に掛かる額が落ちて来しました。数十キログラムになる額です。幸に小生の前に落下したので無事でしたが、もしこの額が頭の上

に落ちていたらと思うと……。

入寺直後より気が付いていた事ですが、当寺の山門は、かなり斜き、屋根瓦には、沢山の草がはえています。朝晩の門の開閉もきつくなり、時に門の下に瓦の破片や屋根の土が落ちて

ければと考えておりましたが、奥之院再建計画又本堂改修に莫大な資金をついやした事もあり、声を上げることができませんでした。

しかし、山門額が落ちた時より、まず始めに（奥之院護摩堂再建前に）、そしてできるだけ早く、この山門を修復しなければ思うようになりました。なぜなら、このままでは、大変危険だからです。とは言っても簡単な門を作る訳にもいきません。この山門は、修禪寺で一番古い建造物であり、文化財であり、また修善寺温泉場の顔だと思

うからです。宗門の祖師方（道元禅師・瑩山禅師）は、こう言われます。「寺院の建設修膳に必要以上に力を尽くす必要なし。専一に打坐弁道（坐禅修行）すべし。」と。釈尊は、弟子達にのこした

遺教経の中で『少欲・知足』を説いています。又古佛趙州（ジョウシュウ）禅師は、小さな、雨が漏れる寺で弟子達と共に坐禅をして居ました。一度たりとも檀信徒に寄進をたのまずに。

しかし、恥ずかしながら、今の修禪寺は、観光寺院としての面が強いのです。もし修禪寺が観光客の受け入れを止め、観光に関する

一切の事業から手をひいたら、市や町の沢山の人達がこまります。観光・修禪寺は、この地域に生活する人々と密接に関係しているのですか

ら。だから、だから、安全な入口である山門が必要なのです。

もちろん、山内の者、特に僧は、日々の修行に精進しなければなりません。それは、出家者・僧の本分なのです。そして、もし修行が無い寺になつた時には、人がこなくなるでしょうね。観光客さえも。観光事業にかまけて、修行もできない修禪寺では、一番先に小生が出て行きます。小生、富貴の為に僧となつたのではありません。

千二百年祭に際し、檀信徒の方々より過分なる寄付を戴きました。これ以上檀家の皆様より寄付を戴く事はできません。しかし正直、千二百年祭という大事業后でもあり、資金面は、大変です。このような訳で、なさない話ですが、縁のある方々より、いくらかの寄付を戴ければ幸いと思ひ、この文章を書いて居ります。

「やっぱり修善寺温泉・修禪寺が好きだ。」と言う方々からの思いに期待しながら。もちろん寄付を戴いた方々の社名・御名前等は、代々残る形で顕彰させて戴きたく思っております。

ぶしつけな、失礼な御願いですが、何卒何卒宜しく御願ひ申し上げます。

本色慕レ道ノ衲子 アニ 豈見レ義不レ
勇レ為也哉 如今叢林危急存亡
之時也 誠レ之誠レ之

平成二十六年 元旦

修禪寺小住 真常合掌

